会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和2年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」  （２）教職員の資質能力向上の推進①効果的な教育成果②教職員研修プログラムの構築 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第3回教員研修プログラム開発委員会 |
| 開催日時 | 令和3年1月25日（火）　14時00分～15時00分 |
| 場所 | オンライン会議 |
| 出席者 | 事業責任者：高岡 信吾  委　員：上里　政光、岡村　慎一、岩切　直子、植上　一希、猪俣　昇  計6名  請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　　　計1名  　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計7名 |
| 議題等 | 1. 各WGの進捗報告  ①学習評価WG（植上）  ◆11月以降の活動概要  ・10月までのWG・研究者会議での議論をもとに、調査案を設計し、アンケ  ート調査グループとアクションリサーチグループに分かれて、データ収  集・分析を行った。  ・アクションリサーチは計5名の先生にインタビューを実施した。  ・アンケート調査は計195件の回答を得られた。  ・現在データ分析に入っている。  ◆進捗状況および課題  (1)アンケート調査について  ・アンケートの位置付け：プログラム開発のための客観的な根拠収集  ⇒その手段として非認知能力の評価基準に関する実態調査  目的は専門学校教育において非認知能力の位置づけられ方、意識のされ  方などを調査し、「手引き」や「研修プログラム」の必要性の根拠とす  る。  ・大変重要なデータが得られたので、セミナー・研究等で発信していきた  い。  ・アンケートの回答件数は195件。第5回WGの議論を踏まえ教務責任者、  一般教員調査の追加分析が概ね終了、報告書作成段階に移行している。  ・色々な項目で客観的で有効なデータが得られた。アンケートの分析結果  は2月に提示する。  (2)アクションリサーチグループについて  ・アクションリサーチの位置付け：専門学校の先生方が、現場において非  認知能力の目標化・言語化をどのようにおこなっているのか、その現状  を明らかにする。来年度以降のアクションリサーチに向けた予備調査と  しての位置付け。  目的は現場での非認知能力の目標化・言語化の現状を聞き取る。  ・もともと、インタビュー調査・実際の現場への還元という形でのアクシ  ョンリサーチを計画していたがコロナ禍のなかで、実際の現場への調査  結果の還元という点については来年度に回すこととした。  ・インタビュー調査についてもコロナ禍悪化に伴い、KBC学園さんなど  調査計画が変更を余儀なくされ、限られたデータになった。  ・実態としては非認知能力が育成されている側面があるが、言語化されて  いる場合とされていない場合があり、言語化できる先生の中にも、その  言語化の次元やレベルが様々である。分類分けをすることで研修の組み  立て方などが変わってくることが知見として得られた。  ◆今後の予定  ・1月25日　学習評価WG（第6回）でアクションリサーチ、アンケートの  結果を報告、委員で議論をする予定。  ・報告書はアンケート調査の結果・分析、インタビュー調査の結果・分析  を中心とする。  　【確認事項・意見等】  ・現場への還元はどのような形でする予定だったか？（高岡）  ・学習評価研修プログラムの作成、評価に関する評価や整理の仕方の手引  書の作成、評価シートを作成する予定だった。そのためのアクションリ  サーチが十分にできなかった。（植上）  ・来年の目標は？（高岡）  ・委員の継続が可能であれば、4月・5月から着手できれば、目標はクリア  できると考えるが状況は厳しいと感じる。（植上）  ②ICT活用研修WG（猪俣）  ◆11月以降の活動概要  ・アンケート調査がメインとなった。専門学校4校、大学・大学院4校、  短期大学3校、高等学校4校、学習塾3校、障害者支援1校、プログラ  ミングスクール1校、計20校となった。  ・基本的にオンラインでのヒアリングが中心となった。  ◆会議＆活動内容  ・ヒアリングが中心となり会議はなし。  ◆進捗状況及び課題  ・ヒアリングは計画したスケジュール通り終了した。  ・新型コロナの影響に伴いオンラインでの実施がメインとなった。  ・オンラインだったため、ヒアリングの際の画像や資料などがなく、アウ  　トプットの成果物の品質の担保とボリュームが課題となっている。  ◆今後の予定  ・第4回ICT活用研修WGを1月29日予定。議題としては、アウトプット  の品質、調査によって得られた知見の共有、成果報告と普及について、  教育プログラム作成方針の検討を予定している。  ・第5回ICT活用研修WGは2月下旬～3月上旬を予定。  ◆今年度の着地点目標  ・調査報告書の作成、教育プログラムの作成方針の確定の2つ。  【確認事項・意見等】  ・国内の外、海外の調査をしたらどうかという提案があったが、現状はど  うか？（高岡）  ・ヒアリング調査はスケジュール通り終了しているので、考えていない。  （猪俣）  2. 成果報告会・実績報告等の運営スケジュール（上里）  ・文科省への実績報告書の提出は3月12日が期日となっている。3月10  日を目途に実績報告に必要なもの（成果物・録画など）を揃えたい。  成果物の原稿は2月中旬過ぎまでには欲しい。（飯塚）  ・原稿はパワーポイント良いのか。（植上）  ・ビデオはパワーポイント資料を使用し解説を付ける形になると思うの  で、ビデオに使用する資料は活動成果を凝縮したもので良い。（飯塚）  ・2月中旬過ぎまでには作成完了できると思う。（植上・猪俣）  ・2月19日原稿提出。その後仕様承認、印刷・発送となる。(飯塚)  ・それぞれのWGでビデオの撮影・作成をお願いしたい。（上里）  3. 今後のスケジュール  ・第4回教員研修プログラム開発委員会  　3月3日（水）14時00分～16時00分  福岡にて対面を予定するが状況次第でオンラインを検討。 |
| 配布資料 | ・1月25日WG会議 アクションリサーチ報告  ・アンケート調査グループ報告  ・学習評価WG報告  ・ICT活用研修WG報告 |

以上